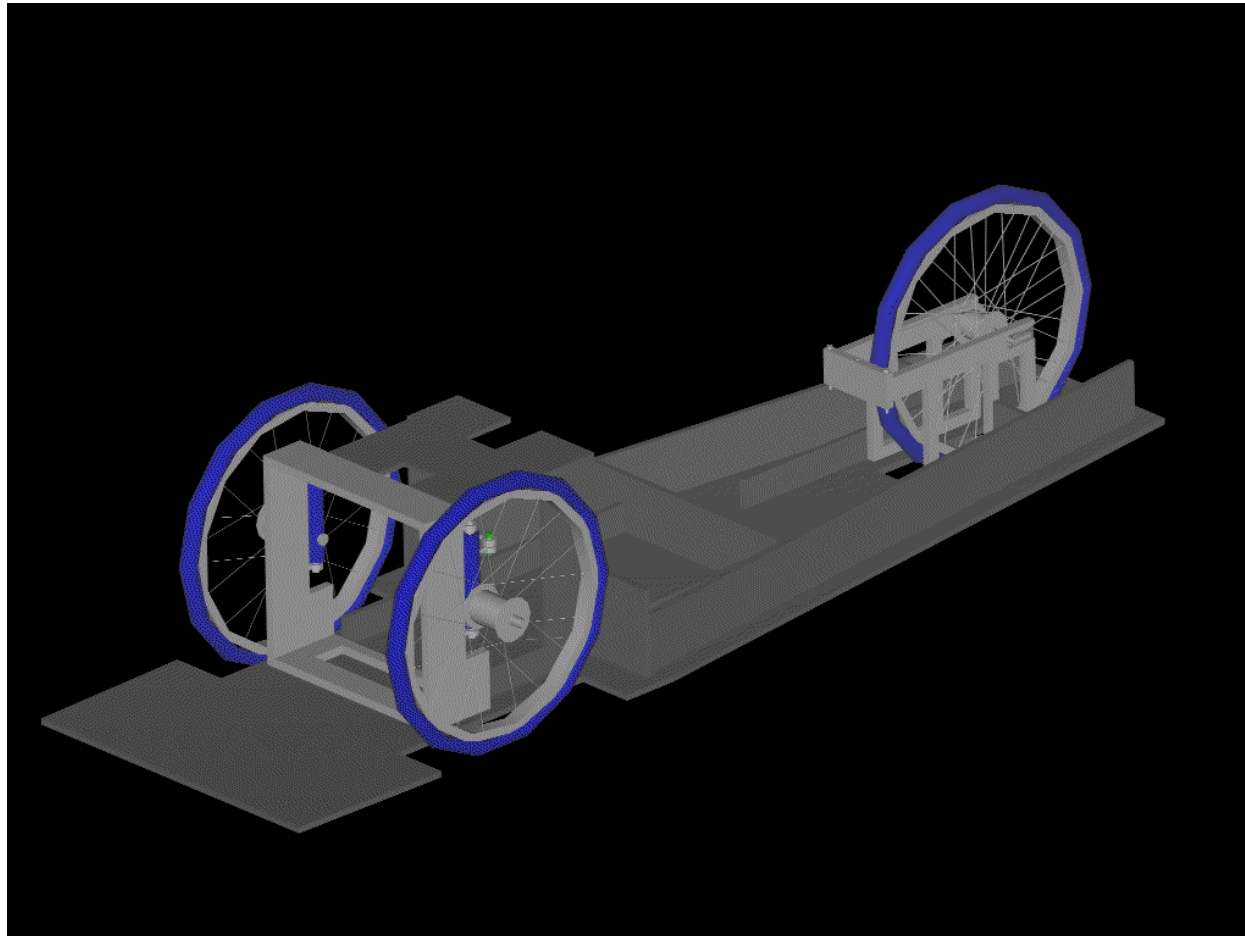


ハンドルの機構

λ アニメーション

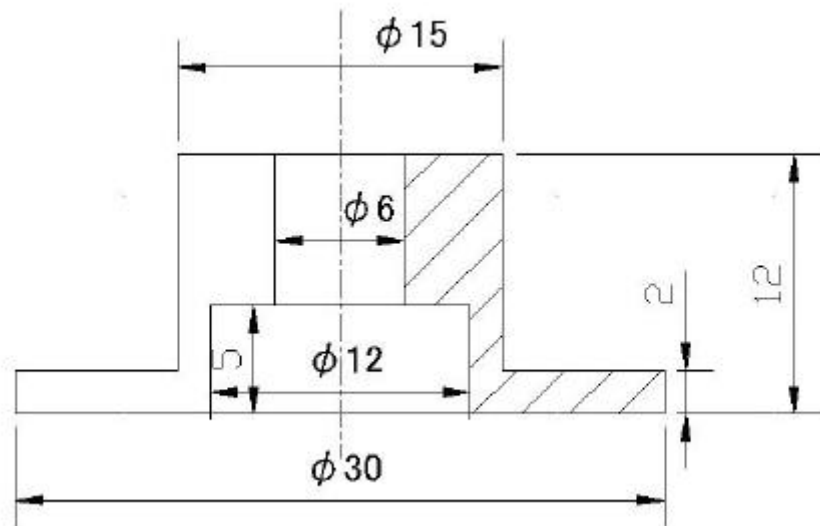


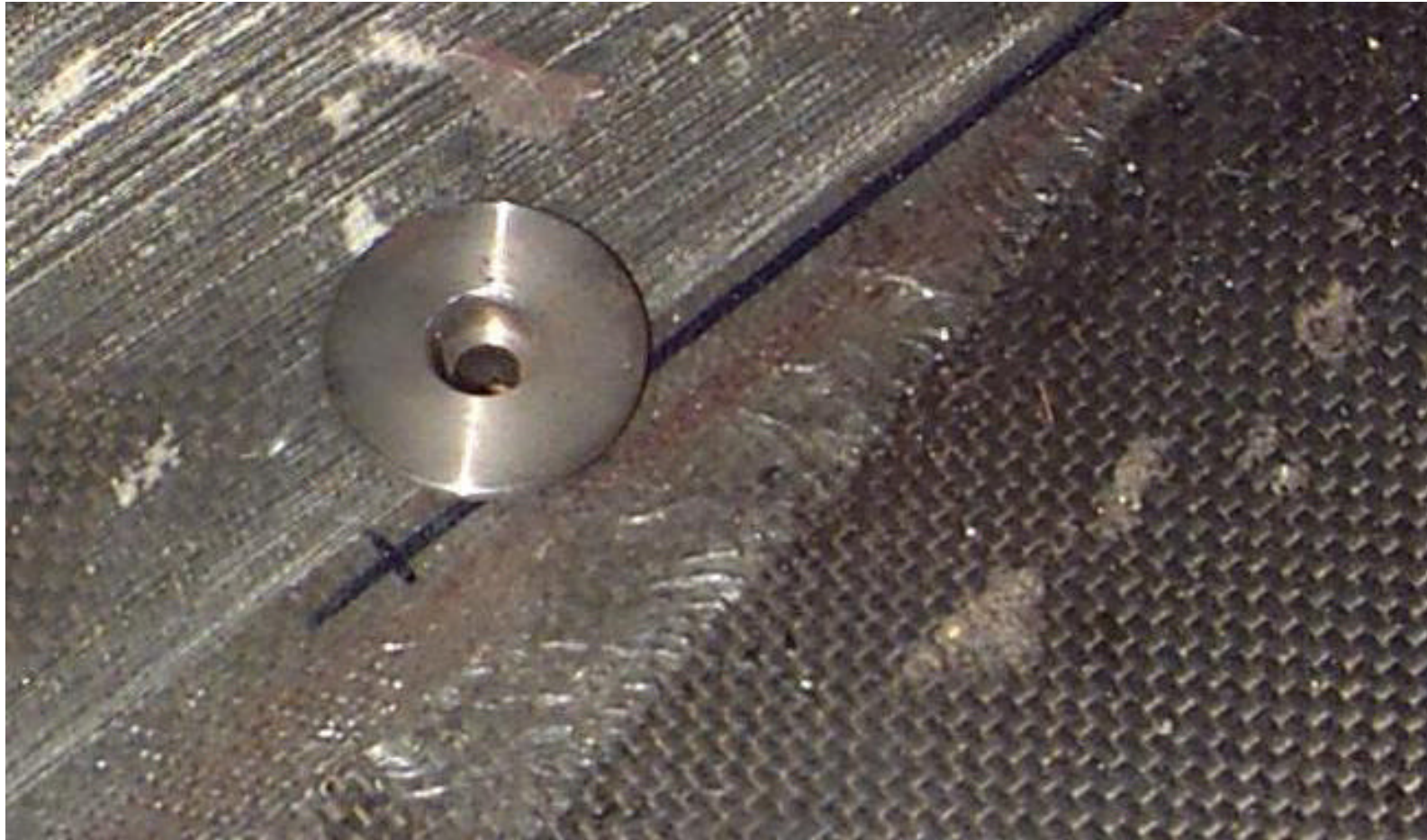
ハニカム材と金属の接合

- λ ハニカム材は間がほぼ空洞のため、局部的な圧縮には弱く、FRPが割れてしまうためネジなどの接合は難しい。
- λ ハニカム材と金属部の接合にはリベットを使用し圧力を分散、もしくはフランジだけで持たせるようにする。
- λ このフランジも、もちろんCADで設計し円柱から切りだして・加工。

フラジ

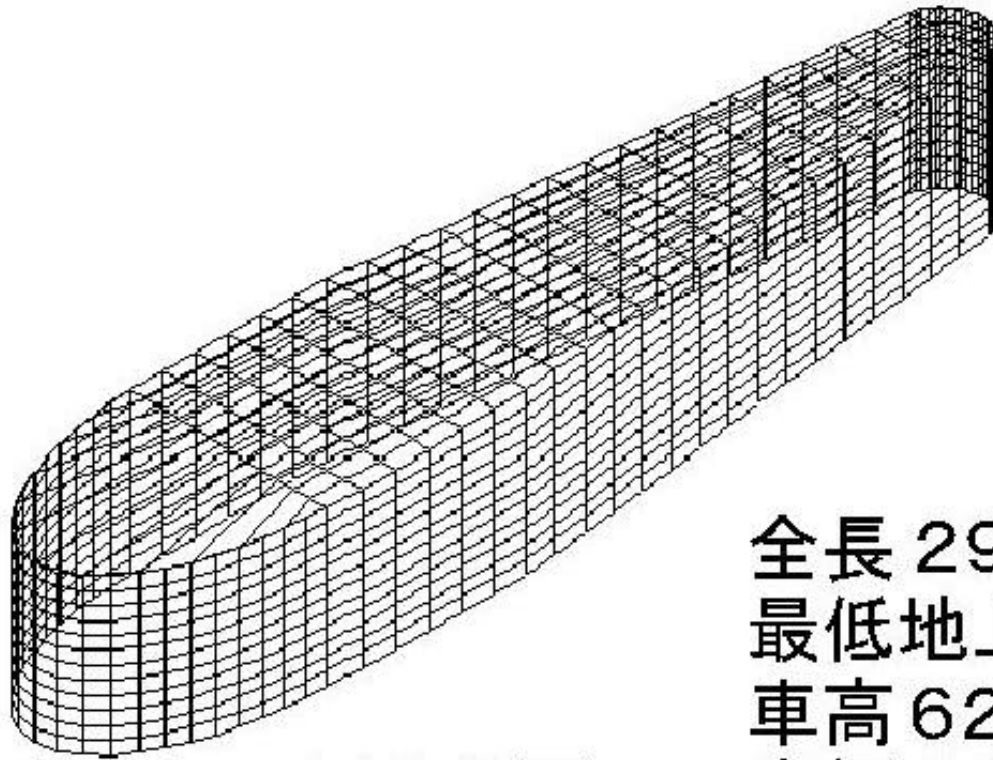
- 色々な風金属の捨て部はべでれ。





ボディに差し込まれたフランジ

CADを使ったボイ 形



全長 2900 mm
最低地上高 50 mm
車高 620 mm
車幅 600 mm

CADの図

パネル設置面の総面積 1.33m^2
形状周り総面積 3.3m^2

一周の長さ 6.2m

デザインについて

- λ ソーラーカーと聞いて頭に浮かぶ形といえ
ばゴキブリのような横に平たくなつた形を
想像する。
- λ このような形にする理由はまずパネルを多
く設置したい、パネルの発電効率を良くす
るため太陽光となるべく垂直に当てたい、
空気抵抗を考え前面投影面積を減らした
い、などが考えられる。

- λ 今回の車両がこのデザインになったのは先に述べたことと、大会レギュレーションでの車体の大きさ及び太陽パネル面積の制限、ソーラーカー制作グループである私達の知識・経験・時間不足によりシンプル形状でないと制作・完成できないと考えてしまったからである。